

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：21301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26671039

研究課題名(和文)都市型診療所における看護師のコンピテンシーとその構造化

研究課題名(英文)Competency and structure of nurses working in urban clinics

研究代表者

大塚 真理子(Otsuka, Mariko)

宮城大学・看護学群・教授

研究者番号：90168998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、都市型診療所看護師のコンピテンシーとその構造を明らかにした。我々は、先行研究の成果と専門家へのヒアリング調査から素案を作成し、WEB版Delphi調査によって検証した。その結果、66のコンピテンシーリストから7のコアコンピテンシーを見出した。7コアコンピテンシーは、『診療所を利用する人の個別ケアができる』、『診療所を利用する人の個別ケアをしながら診療のマネジメントができる』、『診療所を利用する人の家族支援ができる』、『診療所内の看護師同士及び医師や他職種と連携・協働ができる』、『他機関と連携・協働ができる』、『診療所のマネジメントができる』、『地域医療・地域ケアができる』であった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the competency and structure of nurses working in urban clinics. We made a draft based on the results of previous research and interview survey with experts, and verified it in the WEB version Delphi survey. As a result, we found 7 core competencies from 66 competency list. The 7 core competencies were "Care the patients individually", "Care patient individually and parallel management of medical treatment", "Support for family members", "Work with nurses and other occupations in the clinic", "Cooperate with other organizations", "Manage the clinics" and "Care for the community".

研究分野：老年看護学

キーワード：プライマリ・ケア 診療所看護師 地域医療 地域看護 コンピテンシー

1. 研究開始当初の背景

看護基礎教育では、人のライフステージに応じた看護学を教授しているが、入院患者を対象とした看護が中心である。在宅看護論で訪問看護の教育が行われるようになったが、診療所看護の教育はほとんど行われていない。病院では病棟の看護基準が定められているが、無床の診療所では看護師の設置は義務付けられていない。診療所看護師の職能団体もなく、養成教育も行われていない。現在約 11 万人におよぶ診療所看護師（看護白書 2012）は自らの経験知を基に自己研鑽を積んで働いていることと思われる。

地域ケアの分野で、ルーラルナーシングの研究が国内外で行われ、へき地診療所の看護活動の実態調査（春山 2005）も報告されている。都市型地域における診療所看護については、生活習慣病の生活指導（林 2009）や育児支援（伊庭 2004）、糖尿病患者支援（臼井 2008）などの報告があり、対象の生活に密着した効果的な支援が行われている。また、診療所看護師の活動実態（川原 2009）などの報告が散見されるが、診療所看護師のコンピテンシーを明らかにして系統的な養成教育に結びつく文献は見当たらなかった。

都市型地域は、農村地域の地縁社会とは異なり、人口が密集していても近隣のネットワークは希薄であり、支援が必要な人を見逃されやすい。超高齢社会・人口減少時代に備え、地域コミュニティの再構築が課題となっている。診療所に対しては、在宅療養支援診療所に診療報酬がつくようになり、診療所は地域包括ケアシステムの一翼を担い、健康面から地域の拠点となることが期待されている。

また、都市型地域は、人口が多く公共交通機関の利用が便利のために、一人の患者が複数の診療所や病院に通院することが可能な地域である。したがって、患者のコンビニ受診が可能となり、かかりつけ医が定着しにくい課題もある。一方、利便性ゆえに専門性を前面に出し経営的に安定した診療所も都市部には多い。

このような都市型診療所の特徴を踏まえ、予防から看取りまであらゆる健康レベルに対応し、子どもから高齢者まであらゆるライフステージにある人と家族集団を対象とする看護師が、都市型診療所でどのような役割を果たして行けばよいのか。このような都市型診療所に携わる看護師のコンピテンシーを明らかにしてその育成を促進していくことが求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、都市型地域で住民の暮らしを健康面から守る診療所で働く看護師（以下；診療所看護師）のコンピテンシーとその構造を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究は、調査票の作成と Delphi 法によ

る意見集約という 2 段階の研究計画としていたが、Delphi 法による意見集約として行った第一回の調査で大幅に調査票の修正が必要となったので、意見集約の研究を 2 つに分けた。したがって、研究 1：診療所看護師へのインタビュー内容からの「診療所看護師の実践行動」の抽出と調査票の作成、研究 2：診療所看護師のコンピテンシーの予備調査とヒヤリングによるコンピテンシーリストの精練、研究 3：都市型診療所看護師のコンピテンシー項目とその構造化という 3 段階の研究で行った。以下に本研究方法の特徴を述べる。

(1) 調査対象者

日本プライマリ・ケア連合学会の会員に診療所で働く看護師がいるが組織化はされていない。また、ルーラルナーシング学会では、離島や過疎地の医療を担う診療所の看護を担う看護師の会員もいる。診療所看護師として登録されたりリストはないのが現状である。本研究は都市型診療所に焦点を当てているので、研究対象者の選定は機縁法に頼らざるを得ない。

家庭医は、「よろず相談医であり、子どもから高齢者までを診ることができ、在宅医療を担い、家族と集団・地域をも診る」（藤沼 2013）と言われている。家庭医がいる診療所で働く看護師は、よろず相談に関わり、子どもから高齢者の診療・ケアに対応し、在宅ケアを担い、家族と集団・地域ケアにも携わることになる。したがって、本研究で調査対象とするのは、「家庭医療学センターあるいは家庭医療学を標ぼうしているクリニック」で働く看護師が適任と考えた。診療所のなかでも家庭医療学センターは、家庭医の研修機関として家庭医の育成を行っている。なかには、診療所看護師の研修を行っているセンターもあることから、診療所看護に関心が高く、実践的に力量の高い看護師がいることが予測できる。さらに、当該家庭医療学センターに所属していなくても、潜在化している都市型診療所の看護師として活躍している看護師を紹介してもらえる可能性も予測できると考えた。

対象選定の手順は、インターネット（Google）検索で「家庭医療学センター」のキーワードでヒットする全国の家庭医療学センターのセンター長宛に、「研究協力依頼文」を作成して郵送し、本調査の対象となる診療所看護師の推薦を依頼する。推薦していただく場合に、推薦可能な人数をお知らせいただき、「診療所看護師への調査協力依頼文」の配布を依頼した。所属する家庭医療学センター長から診療所看護師宛の調査協力依頼文を受け取った診療所看護師のうち、調査依頼に同意した診療所看護師を本調査の対象者とした。インターネットでは、8 件の家庭医療学センター及びクリニックがヒットしており、いずれも都市型診療所の条件に合

うので8か所に研究協力の依頼を行った。

(2)WEB版 Delphi 法による調査

Delphi 法は、特定の集団に調査、分析、フィードバック、調査を繰り返し意見集約する調査方法である。本研究では、「家庭医療学センターあるいは家庭医療学を標榜しているクリニック」で働く看護師を中心に意見集約を行うことをねらい、そのような診療所では看護師もパソコンやインターネット環境が整っていることを予測し、WEB による Delphi 法で行った。

WEB 版の調査は、サーベイモンキーの有料版を用いた。研究倫理承認後に契約をして、調査票をWEB版調査シートに作成した。個人情報保護し匿名化を図るために、WEB版調査はシート作成を含め専門家に依頼して実施した。

(3)専門家へのヒヤリング

Delphi 法では対象者から自由記載で意見をもらい、数量的な調査結果とともに集約をしてフィードバックする。今回は Delphi 法の対象者は診療所看護師で実践者である。しかし、実践者からの意見ばかりでなく看護学研究者の意見を反映させたいと考えた。その理由は、診療所看護はまだまだ研究が進んでおらず、診療所看護師のコンピテンシーについて、現場の実践している看護の現実的なコンピテンシーばかりではなく、超高齢社会の地域看護を担う看護人材のコンピテンシーという観点から、各分野で看護学の実践研究を行っている看護研究者からの意見をもらうこととした。具体的には、地域看護学、ルーラルナースング、老年看護学、慢性疾患看護学、看護管理学の研究者にご協力をいただいた。

【引用文献】

藤沼康樹：プライマリ・ケアとしての総合診療：都市型 Pharma Medica, 31(8), 31-34, 2013.

林園子(2009)：診療所看護職者による患者教育の実態，大阪府立大学看護学部紀要，15(1)43-52.

春山早苗，鈴木久美子，佐藤幸子他(2005)：へき地の健康危機管理体制づくりにおける保健所保健師の機能・役割-診療所看護職の活動の現状と認識から-，自治医科大学看護学部紀要，3，3-16.

伊庭久江，堂前有香，小川純子他(2004)：医療機関の看護師が行う育児支援について，千葉大学看護学部紀要，26 19-26.

川原由佳子(2009)：診療所における在宅医療での看護師の役割-往診コーディネーターとしての一報告-，看護実践の科学，34(10) 92-94.

臼井玲華，樋口智恵，山西卓(2008)：外来看護師の役割-糖尿病患者支援から，行動変容サポート記録シートを作成して-，治療，90

(12) 3076-3082.

4. 研究成果

診療所看護師のコンピテンシーとして7大項目，66項目が見出された。

(1)『診療所を利用する人の個別ケアができる』

この大項目には19項目が含まれた。診療所を利用する人々の個別ケアに関連するもので、診療所看護の中核となる看護活動を行うためのコンピテンシーである。利用する人の診療所への受診理由を把握し、適切で満足していく受診となるよう、受診後の生活を見据えてケアが提供できるためのものである。診療所看護師の関心とケアは診療にとどまらず、診察前の待合室で配慮が必要な人を見出して迅速に対応したり、通院手段に配慮したりする看護も含んでいる。

(2)『診療所を利用する人の個別ケアをしながら診療のマネジメントができる』

この17項目は、個別ケアとともに診療全体の円滑な運営を行うためのコンピテンシーである。受診したすべての人々が受診目的を果たし満足して帰ることができるよう、待ち時間や待合室の管理を行い、利用者の次の診察までの生活を予測してケアを提供するコンピテンシーである。

(3)『診療所を利用する人の家族支援ができる』

この大項目には3項目が含まれた。受診した利用者の家族集団を看護の対象と捉え、疾病の予防、急性症状への対応、慢性疾患の管理、介護などの様々な家族員の状況に関心を向け、必要に応じたケアを提供するコンピテンシーである。

(4)『診療所内の看護師同士及び医師や他職種と連携・協働ができる』

この7項目は、診療所内の他職種者との連携・協働に関するコンピテンシーである。円滑に診療を進め、利用者への継続したケア、限られた人員で最善のケアを提供するために、他職種と情報を共有し、利用者中心のケアに向けてお互いに補完する連携力である。

(5)『他機関と連携・協働ができる』

この4項目は、診療所外他機関との連携・協働に関するコンピテンシーである。診療所で対応不可能な状況については、他機関と連携してケアを提供し、利用者にとって適切なケアが継続して提供されるよう行動する連携力である。

(6)『診療所のマネジメントができる』

この12項目は、診療所のマネジメントに関するコンピテンシーである。円滑に診療業務が進むように日々の受診の仕組みを計画し、地域の中での役割を認識した運営を行う

ためのものである。

(7) 『地域医療・地域ケアができる』

この4項目は、地域の中での診療所の役割機能の発揮に関するコンピテンシーである。地域特性に合わせて、住民の健康な生活に寄与できる診療所であることを目指した運営を行うためのものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 6 件)

國澤尚子, 大塚真理子, 丸山優, 湯浅美千代: 都市型診療所看護師教育に活かすためのコンピテンシー項目の検討. 日本看護学教育学会第 27 回 学術集会, 215, 2017.8.17-18, 宜野湾市

丸山優, 大塚真理子, 國澤尚子, 辻玲子, 畔上光代, 須賀夏子, 小串路恵, 藤沼康樹, 青木拓也: 都市型診療所における看護師のコンピテンシーとその構造 Delphi 調査時の自由記述の分析から. 第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 301, 2017.5.13-14, 高松市

大塚真理子, 國澤尚子, 丸山優, 辻玲子, 畔上光代, 須賀夏子, 小串路恵, 藤沼康樹, 青木拓也: 都市型診療所における看護師のコンピテンシーとその構造 Delphi 法による適切性の調査から. 第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 331, 2017.5.13-14, 高松市

Mariko Otsuka, Naoko Kunisawa, Yu mariyama, Michie Ogushi, Reiko Tuji, Mitsuyo Azegami, Natsuko Suka, Takuya Aoki, Yasuki Fujinuma: Ideals and actual behaviors in community involvement among nurses at urban clinics, the 20th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), 2017.3.9. 香港

大塚真理子: 地域で働く看護職が有するプライマリ・ケアの協調性. 第 6 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(招待講演), 164, 2015.6.14, つくば市

大塚真理子, 丸山優, 藤沼康樹: 都市型診療所の機能と診療所看護師のコンピテンシー. 千葉看護学会第 20 回学術集会, 2014.9.13, 千葉市

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

診療所看護師のコンピテンシーパンフレット

本研究の成果として,7大項目 66 項目の診療所看護師のコンピテンシーリストをパンフレットとして作成し,関係機関に配布した。

ホームページの開設

本研究の成果報告のホームページを開設し,7大項目 66 項目の診療所看護師のコンピテンシーリストを掲載した。

<https://goo.gl/212da7>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大塚 真理子 (OTSUKA, Mariko)

宮城大学・看護学群・教授

研究者番号: 90168998

(2) 研究分担者

辻 玲子 (TSUJI, Reiko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号: 20644470

丸山 優 (MARUYAMA, Yu)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号: 30381429

畔上 光代 (AZEGAMI, Mitsuyo)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教

研究者番号: 40644472

(3) 連携研究者

湯浅 美千代 (YUASA, Michiyo)

順天堂大学大学院・医療看護学研究科・教授

研究者番号: 70237494

(4) 研究協力者

國澤 尚子 (KUNISAWA, Naoko)

医療生協さいたま地域社会と健康研究所・副所長

水間(須賀) 夏子 (MIZUMA, Natsuko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教

研究者番号: 00740193

藤沼 康樹 (FUJINUMA, Yashuki)

医療生協浮間診療所

小串 路恵 (OGUSHI, Michie)

医療生協浮間診療所

青木 拓也 (AOKI, Takuya)

京都大学・医学部